

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 1階		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成30年2月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、家庭的な雰囲気を大切に、入居者様ご家族様が安心して過ごせるよう、スタッフが楽しく仕事ができるよう会話や笑顔のたえないホーム作りを目指しています。共に喜んだり悲しんだりホームがひとつの家族のような関係作りも大切にしています。また、医療機関や訪問看護との連携により日々の健康管理や、看取り介護にも積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園との交流やボランティアの方との交流、地域行事への参加など、これからも地域との繋がりを大切にし入居者様やご家族様に安心、信頼して頂ける様なホームを目指していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市内の新興住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には遊歩道や公園、幼稚園などがあり、散歩や外気浴、畑作業を楽しむ自然環境に恵まれている。事業所内は清潔で明るく、居間と食堂が一体的で、事務所やキッチンから共用空間全体が見渡しやすい。エレベーターや広めのトイレなど設備面も整い、親しみやすい飾り付けが施されている。職員は利用者に優しく丁寧に接し、職員同士の連携・協力体制も良好で、サービス評価の作成も職員全員で取り組んでいる。地域との関係では、近くの幼稚園との交流やボランティアの訪問があり、地域のお年寄りが気軽に遊びに来るなど地域に溶け込んでいる。家族との関係では家族の意見を丁寧に記録し、毎月個人毎のお便りを作成して家族に提供している。家族の意見を参考に柔軟に対応している。看取り支援の面では、利用開始時と看取り開始時の書類を整備し、利用者や家族の意向に沿ってできる限りの看取り支援を行っている。食事の面では、行事や誕生会に特別メニューを作って提供し、大型スーパーのフードコートや回転ずしの外食、屋外でのバーベキューなどを楽しんでいる。外出支援の面では、日常的に散歩や買い物、個別の希望に沿った外出を行い、行事では花見や紅葉狩り、道の駅見物、釣り堀など様々な場所に出かけて楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、ケア理念をホール内に掲げ、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。	基本理念とケア理念があり、基本理念に「地域と共に歩むホームを目指す」という文言を入れ、地域密着型を意識した理念としている。理念を玄関や各ユニットに掲示し、ミーティングで理念に立ち返って実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でのボランティアとの交流、近隣幼稚園との交流を図っている。地域行事等にも参加。	町内会のお祭りに利用者と共に参加し、幼稚園の運動会見学に利用者と同向している。また、年1回そば打ちのボランティアを招いている。地域の独居老人の安全確保に向けた取り組みにも参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に出向き、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、ご家族様の参加のもとにホームの近況報告や情報交換を行い、サービス向上に繋がるよう取り組んでいる。	会議を2か月毎に開催し、市や地域包括支援センター職員、地域住民、家族の参加を得て、防災や外部評価、感染症などをテーマとして話し合っている。最近では家族への議事録の送付を行っていない。	家族への議事録の送付を期待したい。また、参加できない家族には来訪時に運営推進会議に関する意見を聞き、会議に取り上げることも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修会の場を通して、情報交換や意見交換、相談等しながら協力関係を築いている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得ている。最近では利用料金改定について相談を行った。市のグループホーム連絡会でも行政担当者と情報交換している。職員が認知症サポーター養成講座を2つの小学校で実施した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加し、日々の介護を通しミーティングの場などで意見交換や、話し合いを重ね、スタッフが身体拘束に関し、正しく理解できる様取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為が明示されたマニュアルを整備し、勉強会や外部研修後の報告会を行っている。玄関は日中は施錠せず自由に出入りすることができる。利用者の出入りはセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加し、スタッフ間の情報を共有し個々のケアの方法を再確認しながら、虐待が見過ごされることがないように取り組んでいる。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などの機会を設けて、スタッフ全員が理解できるよう、また学んだことを活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問点を解決し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、ご家族様とのコミュニケーションを大事にし意見や要望に耳を傾けている。面会簿に意見等を記入できるように工夫している。また、意見、要望は運営に反映できるよう取り組んでいる。	家族は平均して月1～2回の来訪がありその際に意見を聞き、「面会記録」を利用者ごとに整理し共有している。退去時に家族アンケートを依頼し、率直な意見を聞いている。家族の意見を参考に廊下部分の椅子を増設した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回の個別懇談の場も設けている。出された意見や要望は、速やかに反映できるよう取り組んでいる。	毎月1回の全体会議とユニット会議があり、職員が活発に意見交換している。年1回の個別面談も実施している。職員は通信作成や行事を交替で担当するほか、防災や会議の司会、書記などを分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為に休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう努めている。月1回のミーティングを利用し、ホーム内での研修も随時行っている。また、資格等の研修も参加しやすいよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して、同業者との交流を図っている。情報交換をすることで、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、安心を確保をできるような関係づくりに努めている。また、ご家族や関係各位からの情報収集にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安に耳を傾け、情報交換や情報の共有を行い、出来るだけ不安の解消、要望に近づける様、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様と相談をしながら、必要としているサービスを見極め、その都度カンファレンスを開くなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。また、喜びや悲しみを共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換や情報の共有をすることで、共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や、友人関係が途切れない様に、外出支援等に努めている。	半分近くの利用者に知人や友人が来訪している。電話や手紙のやり取りも支援している。利用者と一緒に馴染みの定食屋や精肉店に行くこともある。家族と一緒に帰宅して近所の知人に会ったり、墓参りに行く方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう空間作りを含めて支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、今までの関係性を大切にしている。連絡、相談等必要時には支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、カンファレンスを通し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難なケースの場合は、ご家族様に、ご協力を頂いている。	半分近くの方は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情や行動から把握している。フェイスシートやアセスメントシートを年1回更新し、今後は生活歴や趣味などの情報充実を図る意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報と、本人やご家族様から頂いた情報を個別にまとめ、スタッフ間で共有し、サービス利用の過程の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、介護計画を3ヶ月ごとに見直しをし、月1回モニタリングを行い、現状に添った介護計画を作成している。	介護計画を3か月の期間で見直ししている。毎月のモニタリングをもとに意見を集約し、カンファレンスで短期目標を決定し、計画を更新している。日々の記録は計画目標の番号を記しながら利用者の様子を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、連絡ノートや申し送り等を活用しながら、変化等に気づきスタッフ間の情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時その時のニーズに合わせて柔軟なサービスの対応が出来るよう、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや近隣幼稚園との交流、ボランティアとの交流などを通して、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関の受診支援も行っている。	利用者全員が協力医療機関による月1～2回の往診を受けており、その他のかかりつけ医への通院も事業所で受診支援している。個人毎に「受診記録」を詳しく作成している。	

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な医療が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう情報交換、情報の共有、相談等病院関係者との関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り状態になった時は、医療機関や訪問看護ステーションと連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。また、ご家族様との話し合いも入居者の状態に合わせ、随時行っている。	利用開始時に「重度化し、看取りの必要が生じた場合などの対応指針」を説明し、同意書を取り交わしている。看取りが必要となった場合は改めて書類を取り交わしている。過去にも10名以上の看取りの経験を積み、看取りに関する職員研修も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで、随時話し合いを行い、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できるよう努めている。スタッフの入れ替えがあったので、今後救命救急の講習の受講の行っていく。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の近隣住民への協力体制は出来ているが、避難訓練の参加には至っていない。	年2回、消防署の指導を得て昼夜を想定した避難訓練を実施しており、今年は地域住民の参加の確約を得ている。一方、職員の定期的な救急救命訓練は行っていない。災害時に必要な備品や地震等のマニュアルを用意している。	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけをする時の、声の大きさや言葉使いに注意し、それぞれの状況に合わせた対応をしている。	職員は利用者の誇りを大切に、失礼のない呼びかけをしている。個人記録は見え辛くように保管し、申し送りも個人名が特定できないよう話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人の思いや希望を理解できる様、また自己決定が出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを把握し、本人の希望に沿った日々を過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。衣服等は、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。			

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みのメニューや、味付け等に配慮し食事が楽しみとなる様支援している。また、本人の負担にならない様に、配膳や片付けを一緒に行っている。	業者から献立表と食材が搬入されるが、月に数回は食材を止めて、利用者の食べたいものを提供している。外食や出前弁当、庭でバーベキューをすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、キザミ食やトロミをつけるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。スタッフ全員が、口腔ケアに関し同じ認識をもって取り組めるよう、研修会を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っているが、個々の力や排泄パターンに合わせて、リハビリハンツ使用や夜間のポータブルトイレの支援も行っている。	フロアにより排泄・水分摂取チェック表や日々の介護記録に排泄排便の記録をしている。排泄面で自立している利用者も夜間の状況は記録している。耳元でトイレ誘導を促すなど他者に聞こえない工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、腹部マッサージや服薬の支援、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。	入浴剤を使ったり、好みの湯加減で歌を歌うなど多様であるが、一人平均で週に2度の入浴が行われている。羞恥心に配慮して入浴支援で同性介助の希望があれば応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの就寝時間が違う為、生活パターン、身体状況に合わせて、それぞれが安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。また、服薬後の体調変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、ぬり絵や編み物、ドリルなどそれぞれの、趣味・嗜好品等で楽しめるよう、気分転換ができるよう支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りではあるが、本人の希望に沿って散歩や買い物、外食などの支援を行っている。また、お花見、紅葉狩りなど年に数回、ご家族様にも参加してもらい車で遠出の外も行っている。	日々の散歩でホーム近隣や遊歩道を歩いている。外出では千歳のサーモンパーク、緑ヶ丘公園の桜、夕張で紅葉見学、虎杖浜で釣り堀、ウトナイ湖畔など外食を兼ねた外出の機会も多い。イオンのフードコートや三星でソフトクリームを食べるなど、楽しい戸外行事で楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望通りにより、買い物や外食等に同行し、お金を使うことの支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や花、行事の写真などで季節の移り変わりを感じとって頂けるような空間作りをしている。また、居心地よく過ごして頂けるよう、清潔に注意し、季節に合わせて扇風機や加湿器などで温度、湿度にも気をつけている。	玄関からエレベータと階段で上階へ移動でき、事務室から死角をなくするよう見渡せる鏡が入口上部に設置してある。リビングに食卓テーブルと、テレビの前にソファがあり、自由に好きな場所でくつろいでいる。加湿器を使い、湿度管理を徹底している。きれいに清掃され居心地のよさが感じられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビを見るなど、思い思いに過ごせるよう、また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。スタッフが入り、入居者様同士が楽しく会話が出来るよう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物を配置したり、転倒のリスクを考え動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしている。	居室入口に干支の飾りや利用者の写真を飾り、部屋には使い慣れたタンスや椅子、仏壇、編み物用品、家族の写真、相撲の番付表や野球選手のポスターを飾り、心地よく安心して暮らせる部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、死角になる廊下には鏡を設置したり、転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者様が自立して生活を送れるように支援している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 2階		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成30年2月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様ご家族様が安心して過ごせるよう、スタッフが楽しく仕事ができるよう会話や笑顔のたえないホーム作りを目指しています。共に喜んだり悲しんだりホームがひとつの家族のような関係作りも大切にしています。また、医療機関や訪問看護との連携により日々の健康管理や、看取り介護にも積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園との交流やボランティアの方との交流、地域行事への参加など、これからも地域との繋がりを大切にし入居者様やご家族様に安心、信頼して頂ける様なホームを目指していきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlwg.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlwg.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、ケア理念をホール内に掲げ、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でのボランティアとの交流、近隣幼稚園との交流を図っている。地域行事等にも参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の小学校での、認知症サポーター養成講座に出向き、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、ご家族様の参加のもとにホームの近況報告や情報交換を行い、サービス向上に繋がるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修会の場を通して、情報交換や意見交換、相談等をしながらか協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加し、日々の介護を通しミーティングの場などで意見交換や、話し合いを重ね、スタッフが身体拘束に関し、正しく理解できる様取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加し、スタッフ間の情報を共有し個々のケアの方法を再確認しながら、虐待が見過ごされることがないように取り組んでいる。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などの機会を設けて、スタッフ全員が理解できるよう、また学んだことを活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問点を解決し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、ご家族様とのコミュニケーションを大事にし意見や要望に耳を傾けている。面会簿に意見等を記入できるように工夫している。また、意見、要望は運営に反映できるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回の個別懇談の場も設けている。出された意見や要望は、速やかに反映できるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。向上心がもてる様、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう努めている。月1回のミーティングを利用し、ホーム内での研修も随時行っている。また、資格等の研修も参加しやすいよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して、同業者との交流を図っている。情報交換をすることで、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、安心を確保をできるような関係づくりに努めている。また、ご家族や関係各位からの情報収集にも努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも安心してご利用頂けるよう、ご家族様の困っていることや不安、要望に耳を傾け信頼関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に収集した内容や本人、ご家族様からの聞き取りで、どのような支援が必要なのかを見極め、本人に合った支援ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側もされる側も、同じ立場という思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。また、喜びや悲しみを共有できるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換や情報の共有をすることで、共に支え合う関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や、友人関係が途切れない様に、外出支援等に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう空間作りを含めて支援している。			

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、今までの関係性を大切にしている。連絡、相談等必要時には支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、カンファレンスを通し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難なケースの場合は、ご家族様に、ご協力を頂いている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報と、本人やご家族様から頂いた情報を個別にまとめ、スタッフ間で共有し、サービス利用の過程の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等やコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや身体状況の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、介護計画を3ヶ月ごとに見直しをし、月1回モニタリングを行い、現状に添った介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、連絡ノートや申し送り等を活用しながら、変化等に気づきスタッフ間の情報共有に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の、その時その時のニーズに合わせて柔軟なサービスの対応が出来るよう、取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや近隣幼稚園との交流、ボランティアとの交流などを通して、楽しく暮らせるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関の受診支援も行っている。			

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっており、週1回の定期訪問で情報交換、情報の共有をし、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、安心して治療が受けられるよう、また、早期退院が出来るよう情報交換、情報の共有、相談等病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り状態になった時は、医療機関や訪問看護ステーションと連携をしながら、スタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。また、ご家族様との話し合いも入居者の状態に合わせて、随時行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで、随時話し合いを行い、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できるよう努めている。スタッフの入れ替えがあったので、今後救命救急の講習の受講の行っていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼・夜の避難方法等の確認を行っている。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。災害時の近隣住民への協力体制は出来ているが、避難訓練の参加には至っていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけをする時の、声の大きさや言葉使いに注意し、それぞれの状況に合わせた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して、本人の思いや希望を理解できる様、また自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを把握し、本人の希望に沿った日々を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。衣服等は、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレが出来る様声かけを行い支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みのメニューや、味付け等に配慮し食事が楽しみとなる様支援している。また、本人の負担にならない様に、調理や後片付けと一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日を通して栄養や水分が確保出来るよう努めている。必要に応じて、キザミ食やトロミをつけるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの声かけや、義歯の洗浄等で、口腔内が清潔に保てるよう支援している。スタッフ全員が、口腔ケアに関し同じ認識をもって取り組めるよう、研修会を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っているが、個々の力や排泄パターンに合わせて、リハビリハンツ使用や夜間のポータブルトイレの支援もやっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を付け、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて、腹部マッサージや服薬の支援、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの就寝時間が違う為、生活パターン、身体状況に合わせて、それぞれが安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。また、服薬後の体調変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし、ぬり絵や本を見るなどそれぞれの、趣味・嗜好品等で楽しめるよう、気分転換ができるよう支援している。		

グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りではあるが、本人の希望に沿って散歩や買い物、外食、地域行事への参加等の支援を行っている。また、ホーム行事で畑作りやバーベキューなど外に出る機会を作っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望通りにより、買い物や外食等に同行し、お金を使うことの支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、手紙や電話の取り次ぎなどの支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や花、行事の写真などで季節の移り変わりを感じとって頂けるような空間作りをしている。また、居心地よく過ごして頂けるよう、清潔に注意し、季節に合わせて扇風機や加湿器などで温度、湿度にも気をつけている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビを見るなど、思い思いに過ごせるよう、また車椅子でも、自由に動けるよう家具の配置にも気を付けている。スタッフが入り、入居者様同士が楽しく会話が出来よう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物を配置したり、転倒のリスクを考え動きやすい環境を作るなど、居心地の良い居室作りをしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、死角になる廊下には鏡を設置したり、転倒のリスクがある場合は、物を置かないなどの工夫をし、入居者様が自立して生活を送れるように支援している。			

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ほほえみ

作成日：平成 30年 3月 20日

市町村受理日：平成 30年 3月 23日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族への議事録の送付を期待したい。また、参加できない家族には来訪時に運営推進会議に関する意見を聞き、会議に取り上げることも期待したい。	会議の議事録を継続的に、ご家族様に送付する。ご家族様の意見を会議に反映できる様取り組んでいく。	ご家族様への手紙送付に合わせて、議事録を送るよう、議事録の作成を早めにする。また、ご家族様の意見を取り入れられるよう、来訪時等に一声掛ける様に取り組む。	6ヶ月～
2	35	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。	救急救命講習を3年に1回受講できるようにする。	全員が、3年に1回救急救命講習を受講できるよう、計画を立て管理していく。	1年～
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。